サッカーにおける一貫指導の認知度
～中学生年代の保護者に着目して～

三谷　優太（競技スポーツ学科　コーチングコース）
指導教員　松田　保

キーワード；一貫指導，認知度，中学年代，保護者

１.緒言

近年の日本男子サッカーは2010年FIFAワールドカップ南アフリカ大会においてベスト 16，AFC アジアカップ 2011 において優勝，2013 年には世界最速でブラジルワールドカップ連続５大会出場を決めたことで日本のサッカー界は大きく前進しているといえる.

この背景には日本サッカー協会(JFA：Japan Football Association)が「一貫指導システム」の成果が表れているといえる.

「一貫指導システム」とは，一貫校や一貫した複数のカテゴリーを含むクラブでの指導に限らない.日本の指導者全体でこの考えを共有し，チームや指導者が移り変わっても，選手の将来,全体像を共有しそれぞれの担当の年代を指導するシステムである．また,「勝った」「負けた」にとらわれない，発達発育に応じた育成をし,素材を最大限に生かした選手を育てるための指導が一貫指導のコンセプトである.しかし,現実は中学年代の多くのチームが勝利至上主義を実践している．さらに、保護者の中には勝利至上主義のチームを評価するものも多い.子供を預けている保護者が一貫指導システムについて正しく理解しているかが問題である.

本研究は,中学年代の保護者約 100 人を対象とし,「一貫指導」の内容をどこまで認知しているか,どういった理由でチームを選択しているかを分析・検討することを目的とする.

２.研究方法

アンケート調査(京都クラブユースチームの選手の保護者対象)

アンケート調査で一貫指導の意味をどれだけ認知しているか,チーム選択の際に何を重要視しているか等を調べる.

３.結果と考察

アンケート調査の結果,一貫指導のコンセプトの理解が「勝てるチームを選ぶ」「勝ちを一番に考えるチームを選ぶ」という項目を減少させ,「技術の高さを一番に考えるチームを選ぶ」という項目を増加させることが分かった.また,認知度の調査では,全体的に認知度は低い結果になったが，悪いイメージは持たれておらず,コンセプトの理解度も高かった．しかし，認知度を上げなければ理解をしてもらえないので,認知度を上げる取り組みをクラブ側から,していかなければいけない.

４.まとめ

本研究の今後の課題としては,一貫指導が適切な形で,数多くの人達に認知され理解される方法を探っていき,認知度の向上を図らなければいけない.

引用文献

ジョアンサルバンス（2009）史上最強バルセロナ世界最高の育成メソッド（小学館）
http://www.jfa.or.jp/training/players_first/　（日本サッカー協会ホームページ）10 月 13 日